

浅野氏広島城入城400年記念事業 広島市立中央図書館 企画展 浅野家と広島藩く初代長政から最後の藩主長勲まで
 展示パネル(年表)
 開催期間…令和元年9月16日(月・祝)～11月17日(日)
 会場…広島市立中央図書館2階展示ホール 主催…広島市、広島市立中央図書館

和暦	西暦	藩主	浅野家と広島藩の主なできごと	将軍	日本のできごと
天文二六	一五四七		浅野家は美濃国(岐阜県)守護土岐氏の一族と伝わる。尾張国(愛知県)丹羽郡に住み、織田家に仕える。		
天正一〇	一五八二		長政、本能寺の変後の備中大返しの際には、姫路城代。		本能寺の変(一五八二)
一一	一五八三		長政は秀吉に仕え、賤ヶ岳の戦いの後、京都奉行を務め、近江国(滋賀県)で瀬田城・坂本城を給う。		
一四	一五八六		長政、秀吉の命により徳川家康の懐柔に成功。坂本城より近江国(滋賀県)大津城に移る。		秀吉、関白に任じられ(一五八五)、翌年、豊臣の姓を給う
一五	一五八七		長政、九州島津義久制圧の功により、若狭国(福井県)一国八万石を給い、小浜(後瀬山城)を居城とする。		
一八	一五九〇		小田原北条氏攻めに従軍、長政は鉢形城・忍城などを攻め、嫡男幸長は武蔵国(埼玉県)岩槻城攻めで初陣をかざる。 長政、伊達政宗の懐柔(小田原参陣)及び検地奉行として奥羽仕置(太閤検地)に力を尽くす。		秀吉の全国統一(一五九〇) 文禄の役(一五九二)
文禄二	一五九三		長政、幸長とともに甲斐(山梨県)一国二万五千石を給い、甲府を居城とする。		関白豊臣秀次自刃(一五九五)
慶長元	一五九六		長政、伊達政宗から絶縁される。伏見地震で伏見城被災の折にいち早くかけつけ秀吉を救出する。 幸長、石田三成の讒言にあい、一時能登国(石川県)鶴崎に流されるも、父長政の功で赦免される。		慶長の役(一五九七)
三	一五九八		秀吉の死去にともない、長政、石田三成とともに、諸将の朝鮮からの撤退を実施する。 幸長、加藤清正ら武断派の一人として、石田三成等文治派と対立する。		豊臣秀吉没(一五九八)
四	一五九九		長政、五奉行の一人増田長盛の讒言にあい、豊臣家大老徳川家康に謀反の疑いをかけられ隠居。三男長重を人質として江戸に送り、自身も武蔵国(東京都)府中で蟄居する。		
五	一六〇〇		関ヶ原の戦いでは、長政は秀忠に従ったが軍事には関わらず、幸長が徳川方の先鋒として岐阜城を攻略し、本戦では南宮山の押えを任される。戦後、軍功により幸長、紀伊国和歌山三七万石余に封ぜられる。長晟は大坂在城。家臣により危ういところを救出される。		関ヶ原の戦い(一六〇〇)

一〇	一六〇五	長政、將軍家康から江戸桜田に邸地を給う。	家康	江戸幕府開く（一六〇三）
一一	一六〇六	長政、常陸国（茨城県）真壁に隠居領五万石給う。（長政没後、三男長重が拝領し、後に長直の時、播磨国（兵庫県）赤穂に転封となる（赤穂浅野家））	秀忠	
一五	一六一〇	幸長女春姫と尾張徳川義直の縁約が整う（慶長二〇年入輿）。長晟、備中国（岡山県）足守二万四千石を給い、北政所の守護を勤める。		
一六	一六一一	幸長、豊臣家と徳川家の融和を図り、豊臣秀頼と徳川家康との二条城での対面を実現し、当日は加藤清正とともに秀頼に従う。		
一八	一六一三	長晟、兄幸長の病死を受けて、遺領紀伊三七万石余を相続し、足守領を返上する。大坂冬の陣で軍功を上げる。		大坂冬の陣（一六一四）
元和元	一六一五	長晟、大坂夏の陣において榊井の戦、熊野一揆鎮圧においても軍功を上げる。		大坂夏の陣（一六一五）
二	一六一六	長晟、家康の三女振姫を正室に迎える。翌年、嫡男光晟生まれる（家康の外孫）。		
五	一六一九	長晟、福島正則の改易を受けて、安芸一円・備後国内八郡計四万六千五百石余を領し、広島を居城とする。初代広島藩主となる。広島城入城（八月八日）。同年、幕府よりの領地受渡、家老の知行割を行う。		
六	一六二〇	江戸赤坂に邸地を給う。家臣団への知行割を行う。城下に泉水屋敷（縮景園）築造開始。		
寛永四	一六二七	光晟、江戸城において元服。松平の姓と偏諱（へんき）を賜う。安芸守に任じられる（以後代々続く）。 ※偏諱…実名の一文字目は將軍の名の一字を受けること。	家光	
九	一六三二	長晟病没により、光晟襲封（二代藩主）。庶兄長治に五万石分知し、三次（寛文四年まで三吉）支藩を立てる。		
一〇	一六三三	幕府巡見使の巡視を契機に領内の街道・宿駅・御茶屋の制を整備。		
一一	一六三四	光晟、自ら領内を巡検する。以後藩主の巡検が代々の慣例となる。		
一二	一六三五	家光養女として、光晟に前田利常女満姫（自昌院）入輿。		参勤交代制度確立（一六三五）
一五	一六三八	領内の蔵入地村に地詰（内検地）を実施する。給地村では正保三年（一六四六）に実施し、約五万石を打出す。		島原・天草一揆が起こる（一六三七）

二〇	一六四三	朝鮮通信使の東上を安芸郡蒲刈島で接待し、鞆へ送る。帰途を蒲刈島で迎え、上之関まで送る。	鎖国の完成（一六三九）
正保三	一六四六	広島に東照宮を建立することを許され、慶安元年（一六四八）、城下尾長山に遷宮。	
承応二	一六五三	綱晟、江戸城で元服。將軍家綱から偏諱を賜う。	家綱
寛文三	一六六三	藩儒・黒川道祐、藩命で「芸備国郡志」（二巻）を編纂する。	
一二	一六七二	綱晟致仕により、綱晟襲封（三代藩主）。	
一三	一六七三	綱晟病没により、綱長、元服前の一五歳で襲封（四代藩主）。同年、江戸城で元服。將軍家綱から偏諱を賜う。	生類憐みの令発令（一六八七）
元禄八	一六九五	吉長、江戸城にて元服。將軍綱吉から偏諱を賜う。	綱吉
一四	一七〇一	赤穂藩主浅野長矩、江戸城内にて吉良義央を斬り、即日切腹。分家赤穂浅野家断絶（宝永七年再興）。	赤穂浪士の討ち入り（一七〇二）
宝永元	一七〇四	初めて銀札を発行。宝永四年（一七〇七）幕府の藩札通用停止令により銀札の通用停止。	
三	一七〇六	広島城下三川町に紙座（紙蔵）を設け、藩内の紙楮に専売制を実施。	
五	一七〇八	綱長病没により、吉長襲封（五代藩主）。	吉長
六	一七〇九	吉長、職制改革を実施して家老を顧問とし、執政職（年寄数名）に人材抜擢。甲州流軍学採用。藩政改革の始まり。	家宣 新井白石による正徳の治始まる（一七〇九）
正徳二	一七一二	郡方新格を定め、郡奉行下の代官制度を廃止し、新たに郡代、所務役人、頭庄屋を任命。領内に目安箱設置。	
享保元	一七二六	徴租法を土免制から定免制とする（年貢率の固定）。	家継 享保の改革始まる（一七二六）
三	一七二八	農民による改革への反発が起こり大きな一揆となる。そのため郡方新格を廃し代官制に、定免を廃して土免に戻す。請定銀の制（役所の予算化）を一部の役所で始める（享保一八年全役所に適用）。	吉宗
四	一七二九	三次支藩主長経病没し、支藩断絶。領地は本藩へ返却。同年、長経弟長寔へ分知、三次支藩再興。	
五	一七三〇	三次藩主長寔病没により三次支藩断絶。領地は本藩へ返却。	
七	一七三二	代官を止め、郡奉行・郡廻りなどを置く。	

一〇	一七二五	一〇	一七六〇	一〇	一七六〇	八	一七五八	四	一七五四	三	一七五三	宝曆二	一七五二	延享四	一七四七	元文元	一七三六	二〇	一七三五	一六	一七三一	一五	一七三〇	八	一七八八		
重辰											宗恒																
<p>宗恒致仕により、重辰襲封（第七代藩主）。</p> <p>重辰、社倉を領内全域に広めることを指示。天明六年（一七八六）領内町村に社倉設置。</p> <p>頼春水、香川南浜等を登用し学問所を興し、翌日から格式講釈を行う。</p> <p>学問所の教育を朱子学に統一する。</p> <p>泉邸（現在の縮景園）の改修を行い、ほぼ現在の形となる。作庭は京の庭師清水七郎右衛門。</p>											<p>諸役所の請定銀（年間予算）の削減を実施。</p> <p>重辰、江戸城にて元服。将軍家重から偏諱を賜う。宝曆の大火が起きる。</p> <p>宗恒、「御除銀」二〇〇〇貫を封印する（貯銀）。</p> <p>大坂の豪商鴻池善右衛門との間に「相對掛合」（話し合いによる借財）を成立。</p>					<p>吉長病没し、宗恒襲封（六代藩主）。</p> <p>飢饉対策として、困艸の制実施。宗恒、財政緊縮を柱とした宝曆改革を始める。七カ年間家中の物成を二ツ半とし、五〇%の借地（藩の強制借上）を命じる。財政向緊縮につき、七カ年間普請・作事を停止とする。</p> <p>安芸郡矢野村尾崎八幡宮神官香川将監が、領内で初めて社倉を設置。</p> <p>地概（幕府へ届け出ない検地）を実施（同二年廃止）。</p> <p>吉長、飢饉対策に社倉を検討するも実現せず。家臣家禄を永代禄とする（宝曆四年廃止）。</p> <p>宗恒、江戸城で元服。将軍吉宗から偏諱を賜う。</p> <p>吉長、弟長賢に蔵米三万石を与え、青山内証分家とする。銀札（藩札）を発行。</p>						<p>広島城下白島の稽古屋敷に講学所（後に講学館と改称）を興す。寛保三年（一七四三）経費節減のため講学館閉鎖。</p>					
家治											家重					家齊											
田沼意次、老中となる（一七七二）											天明の大飢饉（一七八二）					寛政の改革始まる（一七八七）											

寛政元	一七八九	齊賢	齊賢、江戸城にて元服。将軍家斉から偏緯を賜う。	寛政異学の禁（一七九〇） ロシア使節ラクスマン通商要求・大黒屋光 太夫帰国（一七九二）
享和元	一八〇一	齊賢	重晟致仕により、齊賢襲封（八代藩主）。	
文化八	一八一一	齊賢	「芸備孝義伝」初編（九巻）を京都瑤芳堂から刊行。幕府へ献納する。 幕府の許可のもと、城下・尾道・三原・宮島に油座を設けて専売制の強化を図る。	ロシア使節レザノフ通商要求（一八〇四） 英フェートン号長崎港不法侵入事件（一八〇八）
天保元	一八三〇	齊肅	齊賢病没により、翌二年、齊肅一四歳で襲封（九代藩主）。同三年、江戸城で元服し、将軍家斉から偏緯を賜う。 齊肅に将軍家斉女末姫入輿。	異国船打ち払い令発令（一八二五）
四	一八三三	齊肅	二葉山御社造営、饒津大明神勧請。	
六	一八三五	齊肅	財政窮乏解決策として六会法を実施。	アヘン戦争（一八四〇〜四二） 天保の改革（一八四一）
一四	一八四三	齊肅	銀札（藩札）の切下げを断行（四十掛）。	薪水給与令発令（一八四二）
弘化四	一八四七	齊肅	慶熾、江戸城にて元服。将軍家慶から偏緯を賜う。	アメリカ使節ビッドル通商要求（一八四六）
嘉永四	一八五一	齊肅	再び藩札の切下げを断行（五百掛）。	
五	一八五二	齊肅	三家老が藩政改革を求める建白書を提出する。	アメリカ使節ペリー来航（一八五三）
六	一八五三	齊肅	齊肅隠居により、慶熾が襲封（一〇代藩主）するが、同年病没。長訓襲封（一一代藩主）。	日米和親条約締結（一八五四）
安政五	一八五八	長訓	長訓、六月から約一か年かけて藩内諸郡を巡察する。	日米修好通商条約締結（一八五八）
文久元	一八六一	長訓	国事周旋及び攘夷周旋の内勅を受ける。長訓、藩政改革（軍制・郡制）の実施を訓令する。 領内沿岸島嶼に砲台を築き警備する。英国汽船を購入し震天丸と命名。軍制を西洋式に改編。	桜田門外の変（一八六〇）
二	一八六二	長訓	禁門の変。京都御所の日之門を警衛。幕府と長州藩の間の文書伝達を命じられる。第一次長州征伐。一二月征討軍解陣。	薩英戦争（一八六三）
三	一八六三	長訓		四国連合艦隊の下関砲撃（一八六四） 第一次長州征伐（一八六四）
元治元	一八六四	長訓		

一五	大正二	三六	一五	一	四	二	明治元	三	慶応二
一九二六	一九一三	一九〇三	一八八二	一八七八	一八七一	一八六九	一八六八	一八六七	一八六六
長勲									
長勲、私立浅野図書館（広島市立中央図書館の前身）を開設。 一九三一年（昭和六）広島市に寄贈。	長勲、日本最初の私立美術館「観古館」を泉邸内に開設。	財団法人芸備協会設立。広島県出身の学生の東京遊学に資金と宿舎を提供。後に長勲が総裁となる。	長勲、第二代イタリー王国公使に任じられる。帰途、欧米を視察し、社会教育の重要性を痛感する。	長勲、私立浅野学校設立（後に山田十竹に引き継がれ、現在の修道学園）。その他、広島大学・旧制広島一中（現国泰寺高校）など、多くの県立・市立学校創設時に、用地・資金・教材を提供。	廃藩置県、広島藩は広島県となる。長勲は広島藩知事を辞し、東京への移住を命じられる。	長訓隠居により、長勲襲封（一二代藩主）。版籍奉還の請願が受理されて広島藩が置かれ、長勲が広島藩知事となる。	鳥羽・伏見の戦いに参加。戊辰戦争始まり、錦御旗を賜う。長勲、賜姓偏諱を止め、本姓・本名へ戻す。長勲、松平慶永・山内豊信・島津忠義・細川護久と連署で開国を建白。	薩長芸三藩同盟締結。長訓は、土佐藩について政権返還の建白書を幕府に提出。世子長勲、王政復古の政変に加わり、小御所会議に出席。議定となる。	第二次征長のため征討軍が広島に集結するが、長訓は出兵拒否する。
								慶喜	第二次長州征伐（一八六六） 薩長同盟結ばれる（一八六六） 徳川慶喜が第一五代将軍に就任（一八六六） 孝明天皇崩御（一八六六）
大日本帝国憲法発布（一八八九）				西南戦争（一八七七）		版籍奉還、大名・公家は家族となる（一八六九）		大政奉還・王政復古の大号令（一八六七）	
第一次世界大戦（一九一四）		関東大震災（一九二三）							